

大麦管理情報 (第5号)

令和8年3月3日
農業技術課広域普及指導センター

1 気象経過

- (1) 12月：平年に比べ、平均気温は7.5℃（平年差+1.8℃）とかなり高く、降水量は274.5mm（平年比97%）と並、全天日射量は5.6MJ/m²/日（同112%）と多くなった。
- (2) 1月：平年に比べ、平均気温は2.5℃（平年差-0.5℃）と低く、降水量は307.0mm（平年比119%）と多く、全天日射量5.7MJ/m²/日（同97%）と並であった。
- (3) 2月：平年に比べ、平均気温は5.1℃（平年差+1.7℃）と高く、降水量は108.5mm（平年比63%）と少なく、全天日射量は9.7MJ/m²/日（同111%）と多くなった。
- (4) 積雪5cm以上の日数は、2月末日現在で35日と近年（12月～3月：35日）並であった。

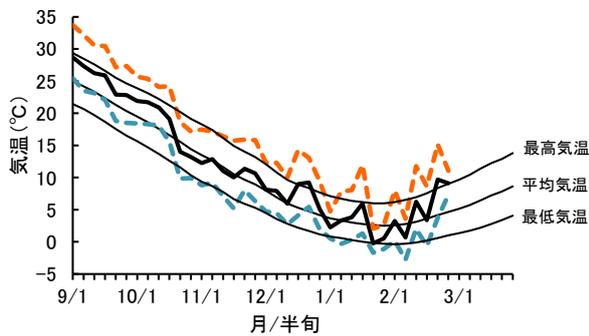


図1 気温の推移 (富山地方気象台)

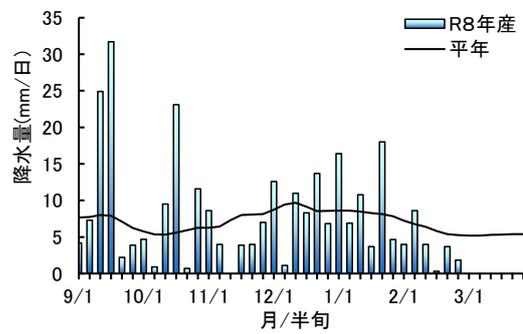


図2 降水量の推移 (富山地方気象台)

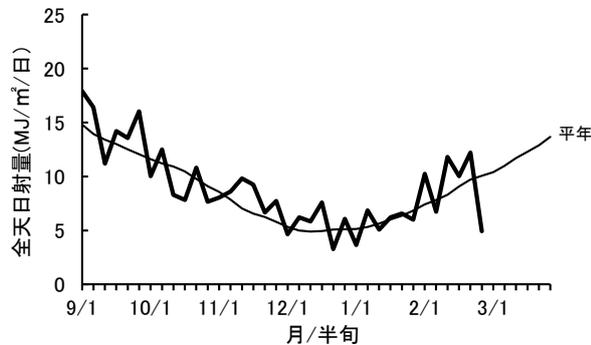


図3 全天日射量の推移 (富山地方気象台)

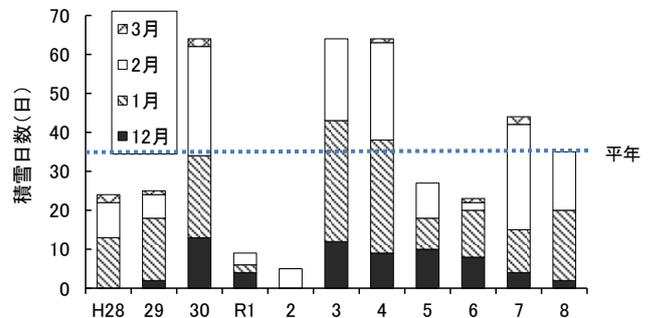


図4 年次別の積雪5cm以上の日数 (富山地方気象台)

注) R8年産は、2月末日現在の日数

2 生育概況

平年に比べ、草丈は短く（平年比86%）、茎数は並（同比99%）、葉齢の展開は並（平年差+0.2葉）、葉色は並（SPAD値、同差-0.4）となっている。また、幼穂長は0.2cm（平年差-0.1cm）と、平年並となっている（表1、図5・6）。

表1 大麦生育観測ほ等調査結果（3月2日）

年産	草丈 (cm)	茎数		葉齢 (葉)	葉色 (SPAD)	幼穂長 (cm)	消雪日 (月/日)	積雪日数 (積雪5cm以上)
		(本/株)	(本/m ²)					
8年産	20.0	5.2	743	9.8	40.2	0.2	2/21	35
7年産	積雪により調査なし						3/6	44
6年産	23.8	4.3	715	10.5	40.6	0.4	-	23
平年	23.3	4.3	750	9.6	40.6	0.3	-	35

注1) 調査ほ場数：10、播種様式はすべてドリル播き

注2) R8年産の値は10月下旬播種を除いた平均、平年はH28～R7年産の平均、図5・6も同様

注3) R8年産の積雪日数は2月末日現在の日数、平年の積雪日数は過去10年間（H28～R7）の平均

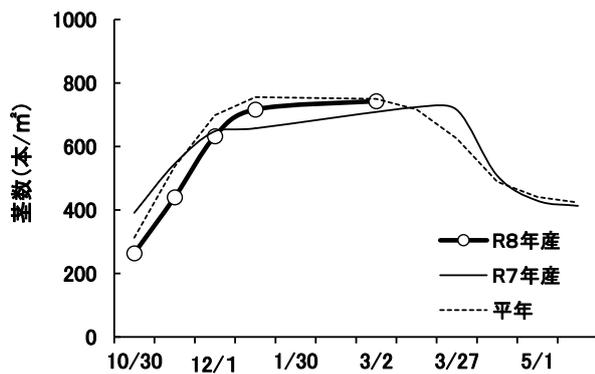


図5 茎数の推移

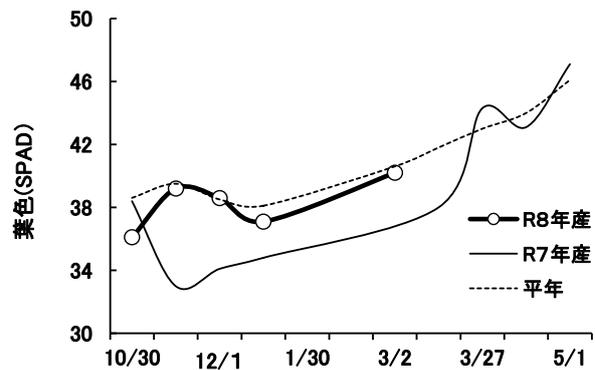


図6 葉色の推移

3 当面の技術対策

(1) 排水対策

ほ場の排水状況の点検を行い、ほ場内に水が停滞しないように、排水溝の手直しを行うとともに、深く掘り下げた排水口への連結を徹底する。

特に、葉色が薄いほ場は今後の肥料の吸収を高めるため、排水対策を徹底する。

(2) 消雪後追肥

ア 肥効調節型基肥栽培

肥料成分の溶出が登熟後半まで続くため、原則追肥は行わない。

イ 分施栽培

まだ消雪後追肥を施用していないところでは速やかに追肥を施用する。ただし、生育が旺盛な場合は減肥する（表2）。

表2 分施栽培の施肥量の目安

茎数	10a当たり窒素追肥量
少～並	4 kg
多	2～3 kg

注) 茎数多：m²当たり1,200本以上

(3) 防除作業等に向けた準備

本年の積雪日数及び現在の幼穂長がほぼ平年並となっていることから、出穂期は平年並（4/15）と見込まれる。一方、近年は3月の気温の変動が大きく、今後の気温の推移によっても、出穂期は変動する（表3）。

今後の気象や生育状況をみながら、赤かび病の防除作業（穂揃期とその7日後）が適期に実施できるように準備する。また、分施栽培では止葉展開期を必ず確認し、追肥作業が遅れないようにする。

表3 生育ステージと出穂期予想

年産	3月1日頃の幼穂長 (cm)	止葉展開期	出穂期	積雪日数 (5cm以上日数)	平均気温 (3月：℃)
8年産	0.2	(4/4)	(4/15)	35	-
7年産	-	4/6	4/20	44	8.4
6年産	0.4	4/2	4/12	23	6.9
5年産	0.3	3/28	4/9	27	10.3
平年	0.3	4/4	4/15	35	8.4

注1) () は積雪日数からの予想

注2) 平年はH28～R7年産の平均、平均気温は富山地方気象台（H28～R7年）の平均

注3) R8年産の積雪日数は、2月末現在の日数（富山地方気象台）